

# コロナ禍における A 特別支援学校の進路指導の現状と課題

— 一般就労に向けた取組に着目して —

○矢野川 祥典（福山平成大学 福祉健康学部こども学科 講師）  
濱村 毅（高知大学教育学部附属特別支援学校）  
石山 貴章（高知県立大学 地域教育研究センター）

## 1 問題と目的

某特別支援学校（以下「A校」という。）は知的障害を主な対象とする学校であり、小学部・中学部・高等部の児童生徒が在籍している。教育目標を「児童生徒の将来における社会的自立と社会参加」と定め、キャリア教育及び進路指導の充実を図っている。

しかしながら、全国的に深刻な状況にある新型コロナウイルスの影響により、A校の現場実習（以下「実習」という。）への影響は長期化するとともに、生徒の進路選択への影響が危惧される事態となっている。今年度、前期（5月）の実習は予定通り実施されたが、後期（高等部3年生9月、高等部2年生・1年生及び中学部3年生は11月実施）の実習に関しては、先行きが不透明と言わざるを得ない。特に一般就労を目指す生徒の進路指導に関しては、進路担当者には負担感が増していると思われる。企業関係者との連絡調整等を進める上で、今後も予断を許さない状況が続くであろう。筆者はA校の進路担当を2018年度まで勤め、現在の進路担当者との連携により進路指導の現状について調査研究を行っているが、進路担当者は去年に引き続き難しい判断を迫られている。こうした状況においても、生徒自身の将来に対する希望や意思を尊重する必要があり、長期的な視点に立ち児童生徒のキャリア教育及びキャリア発達を促すため、進路指導の充実を図る必要があるからである。

本稿ではこれらの視点を踏まえ、実習等の進路指導に関して全般的な計画立案をしている進路担当者に対して調査を行い、コロナ禍における進路指導の現状と課題について一般就労を中心に捉え、検討することを目的とする。

## 2 調査方法

### (1) 調査概要

調査は2021年7月及び8月に実施した。A校の進路担当者に対して質問紙を電子メールにより送付し、回答を得た。回答を踏まえ、電話によるインタビュー調査を実施、詳細を確認した。

### (2) 調査対象

A校に在籍する高等部3年生を中心に2年生と1年生、中学部3年生（以下「高3生徒」、「高2生徒」、「高1生徒」、「中3生徒」という。）を対象とし、対象生徒の進路指導に関する調査を、進路担当者に対して実施した。

### (3) 倫理的配慮

本研究の計画及び発表における「倫理的配慮」について、A特別支援学校長の承認のもと、実施している。

## 3 結果と考察

質問紙及びインタビュー調査による結果を示す。

### (1) 前期（5月～6月）現場実習期間について

まず、今年度前期に実施した実習期間を示す。

表1 前期（5月～6月）現場実習期間

学年	実習期間
高等部3年	5月17日(月)～6月4日(金)：3週間
高等部2年	5月19日(水)～6月5日(金)：3週間

高等部では例年、前期と後期で区切り、実習を実施している。高1生徒については新入生の実態などを考慮し、前期実習はなく、後期から実習実施となる。昨年度に引き続きコロナ禍により実習実施が危ぶまれたが、今年度については当初の予定通りの日程で実習が行われている。

### (2) 実習先選定の際、コロナ禍による影響を受けた点

実習先選定にあたり、進路担当者はコロナ禍による影響があったのか否かについて質問した。その回答から示す。

**ア** 大手販売店での実習は断られた（作業内容は商品の品出し、店頭で商品を並べ直す作業等）。コロナ以前は実習を断られることはなかったが、コロナ禍により断られている。

**イ** ホテル客室や病院での清掃業務では、一般求人は出ているのだが、生徒の保護者のコロナ感染への不安が強くあり、これらでの実習を行うことに対する同意が得られないことがあった。保護者の不安はかなり強いと感じる。

**ウ** 実習を依頼した食品製造会社では、コロナ禍により9月末までは実習や見学の受入をストップしている。現在のコロナ感染の状況から、10月の受入も不透明になってきた。

**ア**の回答では、コロナ禍による影響が述べられている。コロナ禍以前であれば、実習依頼をすれば受入があった企業でも、断りを入れられている。作業内容が商品の品出し、店頭で商品を並べ直す等の業務で、場合により客対応も含み、コロナ感染リスクや感染予防の対応力について問われること、コロナ禍で企業側の指導者の確保がより難しくなっていること等が要因として考えられるだろう。

イの回答からは、コロナ感染に対する保護者の不安について述べられている。進路担当者はここで「保護者の同意が得られないことがあった。保護者の不安はかなり強いと感じる。」と述べており、実習実施に際して、受入側のコロナ対策の問題のみならず、実習場所に向き作業を行う側の生徒自身や保護者への心理的な不安に対する配慮が必要不可欠であることが分かった。実習については、生徒や保護者の同意のもとで実施することが大前提であり、あらためてコロナ禍の影響について考えさせられる回答であった。

ウの回答からは、アの企業と同じくコロナ禍の影響を鑑みて断りを入れられていることがうかがえる。

### (3) 実習先選定の際、コロナ禍の影響を受けなかった点

ア（福祉的就労となるが）A型事業所やB型事業所では、実習の受入に関しては特に問題なく、スムーズにできた。  
イ 大手スーパーマーケットのバックヤードの実習（青果、惣菜部門等）は、これまで通り受入があった。

ウ 青果市場の実習は求人もあり、受入がスムーズだった。

アの回答からは、福祉的就労の現場では、実習受入に関しては、さほど大きな影響はないことがうかがえる。

イ及びウの回答からは、客対応ではないバックヤードでの業務に関しては、実習の受入があり人材を求めていることが分かった。

### (4) コロナ禍の進路指導にあたり、今後の課題や展望、困りごと等について

ア 高3生徒の就職先確定に向けて、候補先の企業のみではまだ、就労に結び付くかどうか、不明確な状況である。

イ 来年度以降の実習など進路指導については、各企業の運営状況によるため、例年以上に判断が難しい状況にある。シーツクリーニングの会社や製造業等の関係者に聞くと、工場が通常通りの運用をしていないので、先行きが読めない状況にある。

ウ 卒業生のアフターケアにおいても、企業の業績不振から、勤務時間が短縮されている卒業生が複数名いる。工場が通常通り稼働しないことには、事態の改善が図れない。

アの回答からは、高3生徒の5月実習や9月実習のみでは、一般就労につながるか否か、まだ不透明な状況であることが分かる。例年、9月実習における生徒の様子から企業側に最終判断を仰ぎ、そこから障害者職業センターやハローワーク、就業・生活支援センター等の関係機関（以下「関係機関」という。）と連携を図り、一般就労を前提とした最終調整に入ることが多い。しかし、コロナ禍の影響が長期化していることから、企業側がどのような判断をするのか、現段階での不透明さは否めない。

イの回答からは、来年度以降の見通しについて判断が難しく非常に厳しいものであることが、述べられている。一般就労に関しては前提の話として、企業側の経営状態によるところも大きい。地域に根差す企業として障害者雇用の

促進、障害者雇用率の遵守は企業が果たすべき責任である。しかしながらコロナ禍の現状、企業経営の状態に関して学校関係者のみでは当然ながら把握が難しい。関係機関と連携を強化し、情報共有を図りながら臨むことが求められる。

ウの回答からは、卒業生の勤務状態にも影響が出ていることが述べられている。これについては、筆者も非常に危惧している。勤務時間の短縮や実質的に解雇となる卒業生がいらないか、今後さらにアフターケアの必要性を感じる。この点についても、関係機関との連携を強化し、卒業生の動向を注視する必要がある。

### (5) 後期（9月、10月～11月）現場実習期間について

次に、後期（9月、10月～11月）の現場実習期間を示す。

表2 後期（9月、10月～11月）現場実習期間

学年	実習期間（予定）
高等部3年	9月 2日(木)～9月24日(金)：4週間
高等部2年	10月25日(月)～11月19日(金)：4週間
高等部1年	11月 1日(月)～11月19日(金)：3週間
中学部3年	11月 4日(木)～11月19日(金)：3週間

9月の高3生徒の実習以降、10月末から高2生徒、高1生徒、そして中3生徒の実習と続く。A校の特色の一つとして、中3生徒からの実習が挙げられる。生徒に対して、また保護者に対しても、とりわけ慎重かつ確実に「成功体験」を実感してもらうことを念頭に準備を重ね、早めの実習実施が通例となっている。

## 4 課題と展望

これらの実習が例年通り実施できるか否か、今年度はさらにコロナ禍を意識した実習とならざるを得ないだろう。それは、進路担当者にとって不安要素を常に抱えながら調整を続けることになり得る。また、先に触れたが、実習に際し、感染リスクを恐れる保護者がいるのはやむを得ない。もちろん、生徒への意思確認も必要となる。実習に臨む生徒や保護者に対して、これまで以上に丁寧な説明と配慮が必要であろう。また、最も危惧している点は、実習先の産業種や業務における選択肢の狭まりである。進路担当者が示すように、すでにこの事象は起きている。生徒の意思による職業選択がなされ職業自立を目指すためにも、多様な実習先の確保が、今後の大きな課題となるだろう。

### 【参考文献】

- 文部科学省「3. 子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題」HP(2020)
- 文部科学省「特別支援学校高等部学習指導要領」HP(2020)

### 【連絡先】

- 矢野川 祥典（福山平成大学 福祉健康学部 こども学科）  
e-mail : yanogawa@heisei-u.ac.jp